

防災コミュニケーション協働プラットフォーム メールニュース
2026 年 5 月号

このたびは、防災コミュニケーション協働プラットフォームにご参加いただき、誠にありがとうございます。

防災関係者と保健・医療・福祉分野の専門職・実践者が協力し、住民の安全を守るための実践につなげる「防災コミュニケーション協働プラットフォーム」の運用を開始しております。

「防災コミュニケーション協働プラットフォーム」は、防災・保健・医療・福祉の枠を超えた専門職・実践者の協働基盤です。「災害死ゼロ」に直結する事前防災を、住民が当たり前実践できる社会の実現を目指しています。

■ 活動内容

本プラットフォームでは、主に以下の活動を予定しています。

【1】定期的な学びと交流、専門職の資質向上

- 定期勉強会（年 2 回程度）
- 研究会・セミナー（年 1 回程度）

定期勉強会では、事前防災に関する実践活動の共有や情報交換を行います。

また、防災関係者や保健・医療・福祉分野の専門職の能力向上に資する研修会・セミナーの開催も予定しています。

■ 今後の予定（次回のセミナーについて）

7 月中の開催で準備しておりますが、【防災と保健の融合に関するセミナー「巨大災害への備えの現在地と今後の展開～防災×保健の連携による事前防災推進に関する国の動き～（仮題）」】を予定しております。

日時：7 月 2 日（木）17:30-18:45

形態：オンライン

想定参加者：全国の保健師、保健・福祉・防災関連課の自治体職員、大学関係者など

プログラム案：

- ① 厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 保健指導室 室長補佐 飯村祥子氏：事前防災を含む関、内閣府、総務省などとの連携の状況 など
- ② 静岡県 危機管理部 危機政策課 課長 若林克茂氏：静岡県内での防災の取り組みや対策推進における課題、保健分野との連携可能性や期待

→ 詳細は、追ってご案内いたします。

今後も、自治体からの話題提供、ワークショップ、情報交換会の報告などを予定しています。

■ 防災コミュニケーション協働プラットフォーム エッセー（第1回）

「なぜ保健師が事前防災？Vol.1」

東北大学 災害科学国際研究所災害公衆衛生分野 大類 真嗣

https://irides.tohoku.ac.jp/organization/orui_masatsugu.html

「なぜ保健師が防災に関わるのか？」そのように感じる方もいらっしゃるかもしれません。

保健師の皆さまは、日頃から地域住民の健康を守る活動をされています。例えば、がん検診の受診勧奨などは、疾病の早期発見・早期治療につながる重要な取り組みです。しかし、地域保健に携わっている皆さまであれば、こうした疑問を持たれたこともあるのではないのでしょうか。

「がん対策は、検診だけで十分なのだろうか？」

食生活、運動習慣、禁煙、適正飲酒など、日常生活の改善による一次予防も同様に重要です。

実は、防災の分野でも同じことが言えます。災害が発生した後に活動する医療チームや保健活動、いわゆる被災による健康影響を最小限にする”二次予防的”な活動は、非常に重要な取り組みです。

しかしその一方で、

- ・津波から迅速に避難するための備えをしておく
- ・家具や家電の転倒から身を守る
- ・家屋倒壊から命を守る
- ・感震ブレーカーを設置する

といった「災害が起こる前の備え」、すなわち防災の一次予防も欠かすことができません。防災に関しても一次予防と二次予防の両輪で進めていくことが不可欠だと認識いただけるのではないかと思います。

防災の一次予防の重要性は、多くの住民の方が理解されていると思います。しかし、それが必ずしも行動につながっているとは言えないのが現状です。

災害による死亡を減らすためには、災害発生後の対応だけではなく、平時からの備え、すなわち住民の事前防災に関する行動変容を社会全体で進めていくことが重要です。

本プラットフォームでは、このような視点から、防災分野と保健・医療・福祉分野の連携を進め、住民の行動変容につながる事前防災の取り組みを推進していきたいと考えています。

次回は、なぜ保健師が事前防災の担い手として期待されているのか？についてお届けしたいと思います。皆さまとともに、地域で実践できる「命を守る事前防災」を広げていきましょう！

■ お知らせ

- 防災コミュニケーション協働プラットフォームのウェブサイトを立ち上げました (<https://web.tohoku.ac.jp/bosai-comm-pf/home.html>)
- 今後も、メールニュースを定期的に配信する予定です。